

論 文 内 容 の 要 旨

氏 名	楊 宇 帆
学位の種類	博 士 (商学)
学位記番号	商 第 8 号
学位授与の日付	平 成 18 年 12 月 15 日
学位授与の要件	学位規程第 4 条第 2 項該当
学位論文題目	中国流通システムの課題～ ～日中流通システムの比較検討を通じて～
論文審査委員 (主 査)	教 授 来 住 元 朗
(副主査)	教 授 武 知 京 三
(副主査)	教 授 羽 路 駒 次

本論文は、日本と中国の流通システムの構造的特質を比較検討することを通して、現在の中国の流通システムの問題点を明らかにし、その改革のための課題を提示することを目的としている。

本論文は次の 6 章から構成されている。

- 第 1 章 日本の流通システムの構造的特質の検討
- 第 2 章 中国の流通システムの構造的特質の検討
- 第 3 章 日本の流通システムの変遷
- 第 4 章 中国の流通システムの変遷
- 第 5 章 日中流通システムの比較 (発展段階別)
- 第 6 章 中国の流通システムの課題

第 1 章では、日本の流通システムの構造的特質についての一般的な認識ないし批判の妥当性が検証されている。「日本の流通システム」は、伝統的に、零細性、過剰性、多段階性という構造的特質 (脆弱性) を持っており、均衡のとれた経済発展を阻害する一因になっていると指摘されできた。この指摘は経済的観点からすれば妥当であるといえる。しかし、零細性および過剰性は、消費者の購買慣習 (小口・高頻度購買) や地域的分散性、購買の利便性の提供、さらには小規模零細小売業の社会的存在意義という点から考えると必ずしも批判されるべきものではない。また、多段階性についての批判すなわち経路が長いから流通コストが高くなるという批判は、流通経路の最適な長さを決定するものは流通業者の数ではなく流通課業の中身であるという点から考えれば、必ずしも妥当であるとは言えない。

第 2 章では、中国の流通システムの構造的特質が検証されている。中国の流通システムは、①国有企業の割合が高いこと、②小売業の零細性、③小売業の過剰性、④多段階性という 4 つの特質を有しており、それが流通の非効率性をもたらす要因となっているという指摘・批判がなされている。しかし、国有企業は中国の政治体制によって残存しているものであり、現在でも経済発展に寄

与している面も多いこと、小規模・零細な小売業の存在は消費者に購買の利便性を与えていること、また、過剰性については、過剰とする基準が不明確・あいまいであることや「適者生存・不適者淘汰」の原理にまかせるべきこと、さらに、多段階性は、交通インフラや物流センターの未整備などに起因する面も多く、単に流通システムそれ自体だけが責を負うものではない、などの点からすれば、そうした批判は必ずしも妥当とはいえない。

重要なのは、流通システム（や流通活動）のあり方は、単に「効率性」という経済的観点からだけでなく、「有効性」ないし社会的存在意義という社会的観点からも考えられなければならないのであって、一面的な見方・批判には問題があるということであり、この点は、日中双方ともにいえることである。

第3章では、生産面および消費面、さらには時代背景との関連において、日本の流通システムの変遷があとづけられている。そこでは、日本の流通システムは、①卸売企業主導型流通システム→②大規模メーカー主導型流通システム→③大規模小売企業主導型流通システム→④製販同盟型流通システム、という発展プロセスをたどってきていることが明らかにされている。

第4章では、中国の流通システムは、①戦後の無秩序状態→②政府主導型流通システム→③メーカー主導型の流通システムと大規模小売業主導型のそれとの併存、という発展プロセスをたどってきていることが明らかにされている。

第5章では、戦後の経済発展にもとづく時代区分に沿って、各時代の生産、消費、および流通活動面（の特徴）との関連において、日中の流通システムが比較され、その異同性が明らかにされている。そこでは、中国の流通システムが日本に比べてかなりの後進性があることが示されている。また、中国においては、社会主義経済体制は流通システムの発展を阻害していたが、改革開放政策によって、市場経済化の道を歩むようになってから、流通システムは経済発展を促す重要な役割を担うものと認識されるようになってきたが、まだ本格的な市場経済が浸透していないことや流通システムそれ自体が（日本や他の先進

国に比べて）脆弱であることから、その役割を十分に果たしていないのが現状であることが指摘されている。

第6章では、中国の流通システムの課題が提示されている。流通システムや流通活動面の後進性・脆弱性は国民生活に悪影響を及ぼすだけでなく、国民経済の発展を阻害するので、その改革は中国の緊急かつ重要な国民経済的課題の一つになっているとの認識のもとに、その改革のための課題として、①不正商品の流通管理の強化、②取引便宜性の向上、③流通生産性の向上、④競争公正性の確立、⑤配分平等性の確立、の5つがあげられている。

最後に、中国においては、流通システムの後進性を解消し、効率的かつ効果的な流通システムを構築するためには、法的環境の整備を最優先し、インフラの整備やその他の社会経済的環境を整備するとともに、法律を守る社会風土を醸成していかなければならないことが強調されている。

論文審査結果の要旨

本論文は、市場経済化が進展している中国において、経済発展にとって流通の果たす役割の重要性に着目し、とくに流通システムに焦点をおいて、その日中比較を通して、中国の流通システムの改革のための課題と方向を探索した研究である。本論文が高く評価される点は次のとおりである。

①中国の先行研究では、流通の問題を経済政策的視点から分析しているものが多く、流通システムそれ自体を対象として究明するという研究はほとんどなかったが、その研究に意欲的に取り組んでいること。

②流通や流通システムのあり方は、「効率性」という経済的観点からだけでなく、むしろ「有効性」やシステムの構成要素（流通担当者）の社会的存在意義という社会的な観点から解明することの重要性を強調し、その立場から分析を試みていること。

③流通システムの特質を、単にそれ自体の「構造」面だけでなく、流通を規定する生産および消費の側面、および時代背景（経済発展段階）と関連させて解明していること。

④とくに中国においては統計データが不十分であることに鑑み、限定的ではあるが、流通ルートの実態調査を行い、流通システムの課題の抽出に努めていること。

しかし、本論文にもいくつかの問題点がある。第1に、本論文は、日中の比較研究の形をとっているが、時代区分（経済発展段階）の基準やそこにおける生産、消費、流通面の特徴の把握の仕方がやや不明確・あいまいであるために、中国の流通システムの課題の抽出に日本のそれについての説明が活かされていない面がみられること。第2に、既存データの収集に努めていることや独自の実態調査を行なっていることなどの努力は評価されるものの、論述に積極的な根拠を与えるにはまだデータが不足している面があることは否めないこと。第3に、抽出されている流通システムの課題が必ずしもその構造的性質（脆弱

性)を踏まえたものになっていないものもあり、論文前半の分析が活かされていない面がみられること。

もとより、これらの問題点については、論者も十分に認識しているところであり、データの整備・充実を図り、研究を精緻化することが今後の課題であるとしている。

中国の研究者であるところから、日本語の表現にやや不明確な面もみられるものの、全体としては、論理展開もスムーズであり独自の見解も明確に示されていること、また、従来の研究に欠如していたシステムの視点や社会的観点から流通システムの分析を試みていることは評価されること大である。

以上から、本論文は、「博士(商学)」の学位を授与される水準にあると認められる。